GEIL2019

＋260万人
総活躍社会へ

Sチーム

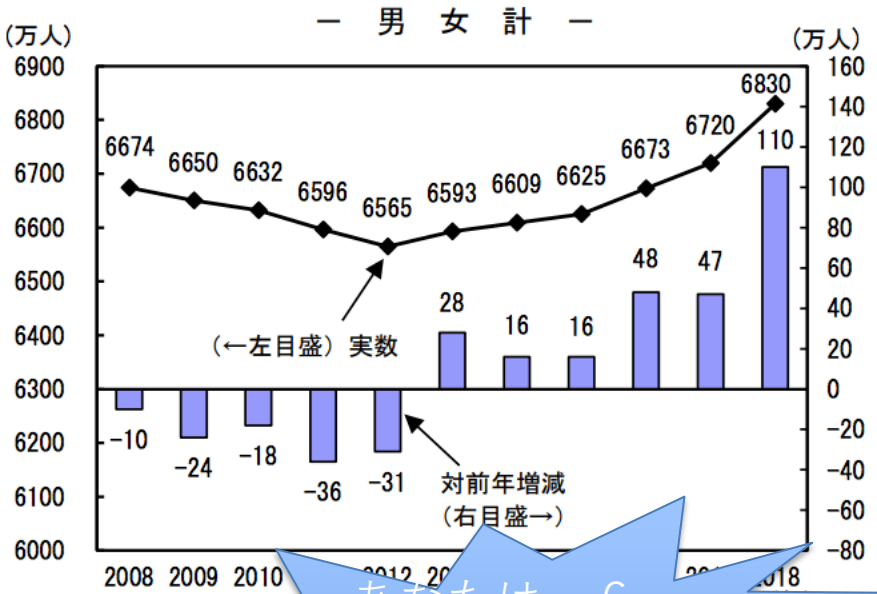
地方創生から考える
社会統合

現状分析

労働力人口自体は実は増加傾向！

この増加は高齢者の就労率増加に大き
起因このままだと…

いま必要なのは若者の労働負担



あなたは，６０年間働けますか？

外国人雇用のメリット

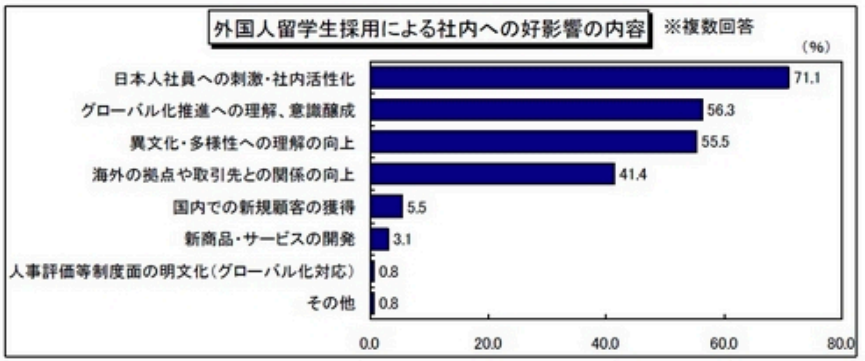
GEIL
Policy Making Contest for Students

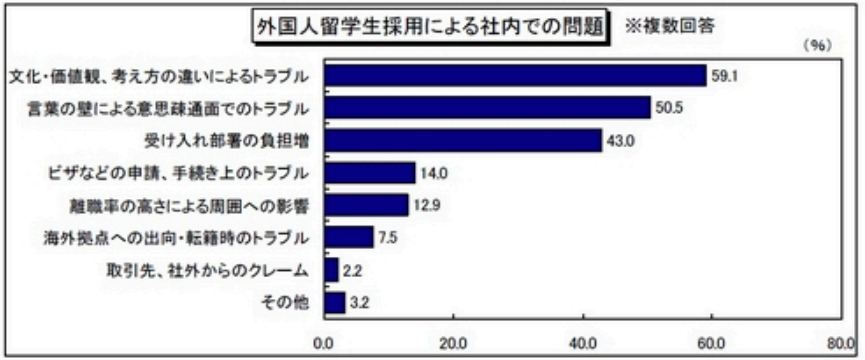
1．日本人社員への刺激
　→意識改革

2．外国人視点の獲得
　→グローバル化への寄与

3．海外企業との結びつき強化
　→新規事業の展開

図表 5





資料出所：株式会社ディスコ「外国人社員の採用に関する企業調査」(2013 年 9 月)

Q.外国人は
単なる労働力なのか？

生活者としての外国人

日本が外国人労働者にとって魅力的な働き先になるために…
→生活環境の整備（生存権の保障）が
　絶対条件！ ＋

　日本社会の一員であることを実感してもらうために…
　地域社会への参画が絶対条件

誰を対象にするのか？

＊「定住外国人」＝中長期滞在者　と定義する
（４ヶ月以上日本に滞在しており，在留カードおよび住民票が発行された者）

- “日本社会における生活者である”ことに重点をおくため，一定の期間以上日本に滞在する人を対象にするのが望ましい

- 住民票のない短期滞在者，不法滞在者は行政の把握が難しい

私たちの考える社会統合はこれだ！！

GEIL
Policy Making Contest for Students

長期的，総合的な目標

1.生活者としての外国人の権利を日本人と同程度まで保障

2.日本人と外国人が相互理解を深め，互いに社会の一翼を担っていると実感できる

3.外国人が国や地域に影響を与える事のできる，意義のある社会参画

日本において不足しているのは
“外国人→日本人”
のアプローチ

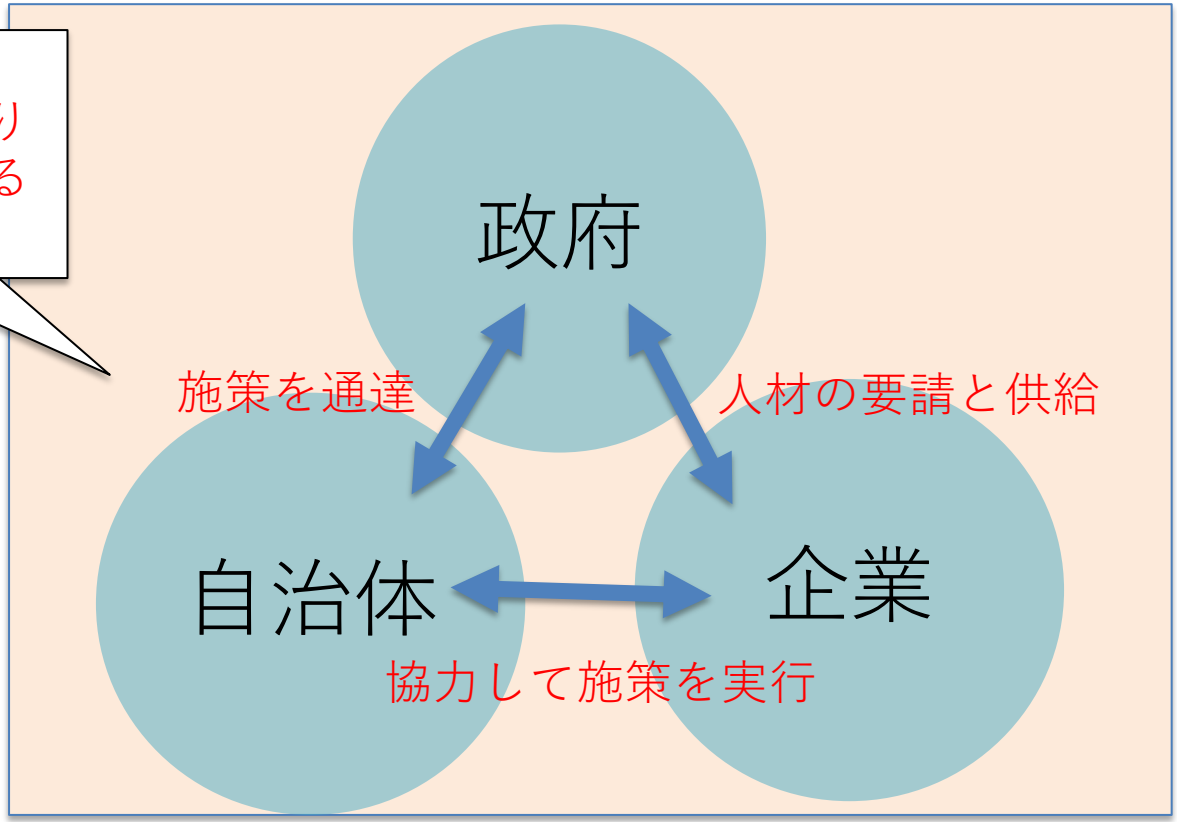
２，３に焦点を当てて，外国人からの働きかけを容易にしよう！！

相互理解と社会参画の不足が問題
⇒人と人との繋がりが希薄化している
でも、それは外国人だけの問題だろうか？

根本的な原因は地域の人同士のつながりの薄さ
⇒そもそも日本人同士の繋がりも希薄化している

その解決として、地方の活性化＝地方創生を行うことによって人と人との繋がりの希薄化に歯止めをかけることができるのではないか

三位一体となり
雇用創出を図る



具体的な施策案

GEIL
Policy Making Contest for Students

1.社会参画に向けた地域での基盤づくり

2.実際に地域社会で役割が担える場の提供、振興

3.国レベルで外国人が輝ける舞台へ

1．社会参画に向けた基盤づくり

GEIL
Policy Making Contest for Students

A

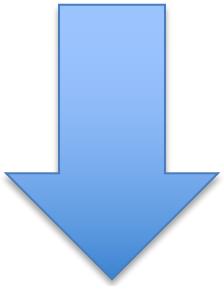
“日本生活教育”の徹底

B

対外国人窓口の整備

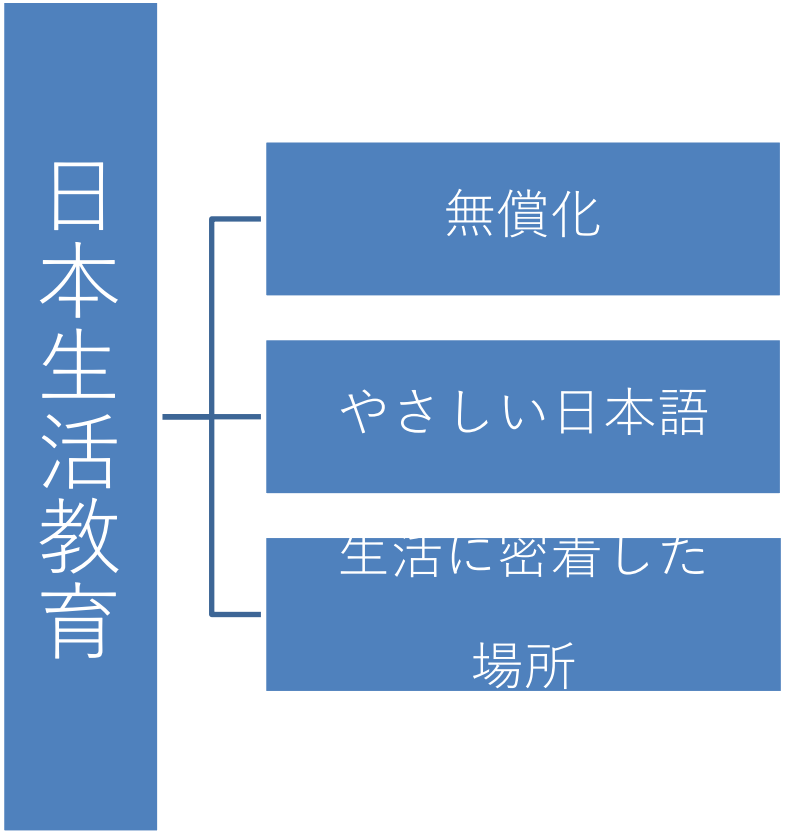
1 - A.“日本生活教育”の徹底

日本生活教育とは？



生活者としての外国人
日本語と日本文化に対する
正しい理解を促す教育

1-A.“日本生活教育”の徹底



1 - B.対外国人窓口の整備

「多文化共生総合相談ワンストップセンター」
・・・外国人に対しての情報提供、相談を多言語で行う施設

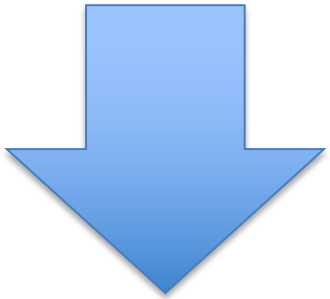
- 相談と手続きを一括で行える窓口である
- 生活者としての外国人に対する支援ができる

が、現状うまく活用できていない

1 - B.対外国人窓口の整備

金銭的援助(助成金)を受けるための条件が厳しい
⇒条件を緩和する

人的資源の量的・質的不足
⇒大学や専門学校と連携して外国人材を確保、育成する



外国人の生活支援・雇用創出へつなげる

2．地域社会で役割を担う場

GEIL
Policy Making Contest for Students

中期的目標

- 地域振興のためのイベントを外国人が運営する

Ex）スポーツ、音楽を通じた交流
農林水産業の体験会

- 観光客を集められるような取り組みを外国人視点から作り上げる

- 国の財政支援の下で自治体間交流を外国人が主導する
⇒統合政策の地域間格差を緩和する

3. 国レベルの舞台

GEIL
Policy Making Contest for Students

地方創生万博

目的：

・日本で社会的役割を果たせていると外国人に実感してもらう
　＝地域のPRを自分に任せられていると実感してもらうこと

・外国人同士の地域的連携、情報提供

・日本人との多文化交流
　＝母文化の保護

ご清聴
ありがとうございました